

## 「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：推薦入試） 外国語学部 国際関係学科 （科目名：小論文）
出題の意図 (評価のポイント)	<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p><b>【出題の背景】</b> 小論文は、英文の資料 1 とそれに関連する和文の資料 2 の二つで構成される。資料 1 は Mitsuru Obe ‘Panda diplomacy grows with China’s ambitions’ (<i>Nikkei Asian Review</i>, Dec. 27, 2017)、資料 2 は国際交流基金が運営する『をちこち (Wochi Kochi) Magazine』に掲載された講演記録で、クルト・ユージェン・マース「文化外交；外交におけるソフトパワーの可能性と限界」(前編：2013 年 9 月 19 日)から、それぞれ一部を抜粋・変更して出題した。二つの資料の大筋と共通テーマは、それぞれの題名から推察されるように「広報文化外交 (public diplomacy)」である。</p> <p><b>【求める能力】</b> 問 1 は、資料 1 の英文を日本語で要約する問題である。国際関係に関して英語で書かれた論説を読解し、その要点を整理するための論理的な思考力と表現力を試す問題である。 問 2 は、二つの資料の共通テーマである「広報文化外交」の果たす役割を説明した上で、パンダが中国の対日外交とどのように関係するのか、効果と限界について論述する問題である。「効果」については主に資料 2 に、「限界」については資料 1 にそれぞれ基づいて読み取り、比較して論じうる論理的な思考力と表現力を測る問題である。</p> <p><b>2. 解法</b></p> <p>問 1 は、英語の読解力をみる問題である。文章も内容も平易であるが、英単語の本来の意味をきちんと理解しているか否かによって、解答の質が大きく分かれた。例えば、commercial や gentle をそれぞれ「商業的、宣伝」や「紳士的」という単一的な意味でしか理解していない場合、内容把握にも支障があり、うまく要約が作成できていなかった。換言すれば、英語を英語としてきちんと学んできたかという姿勢も問われる問題であった。</p> <p>問 2 は、設問を熟読し、その意図をしっかりと捉えて解答する問題であって、自分の考えを自由に述べる問題ではないことに留意してほしい。設問で問われているのは、「広報文化外交」の役割を説明することと、中国のパンダ外交の効果と限界を指摘することである。問題に即して二つの資</p>

料を比較・検討し、論理的な思考・判断を経て自分なりに的確に表現しようと努めたことがわかる解答を高く評価した。

\*\*\*\*\*

➤ **受験生への情報提供**

国際関係について学ぶ学生には、普段の勉強や活動において国際社会のニュースや身近な国際関係について関心を持つことが望まれる。そうした姿勢を高校生の時から養うことは、本学科の推薦入試対策としても役に立つ。